令和 8 年 11 月 17 日

横山 俊一

1)標準性

1-1 同一と相違

経験から一定の考えが作られる。自己と同じ他者という要素と、自己とは異なる他者性という観点を精査し、自己と同じようにやればあなたも成功すると強要できるか、自他の同一原理性を抽象し皮膚感覚の現況性を抑え、最良的方法を引き出し投じる丁寧な創造観を持つか。抽象原理の導出、対象の観測（省く、踏まえる）、最良的方法という文脈を構成するか。単細胞の体育会系とスポーツ選手の感覚は十人十色の個別性を省き強要する粗末な論理に映る事が少なくない。物理依存の強い思考の不足と強要を伺う。

1-2 強要と裁量

「強制する」という概念は何をどうすると言っているか、丁寧な解釈や説明の不足は、歪な強制や傲慢、怠慢、思い上がりの激しさ等という負の性質を伝える。教育は強制である。少々粗末な教育観に映る。対象の個別性や自主内発性を除外する教育は違和感が生じる。自己の都合よい道具を作りたい願望が濃厚にある。道具の形成は教育なのか。

1-3 教育、政治、経営

経営や政治という面にもこうした教育性の要素が含まれる。強制と裁量、強権と放任、計画と自由の観点を生む。寡占が良いか民主制か、社会主義と自由主義、国家と国民の関係に展開される。国の為に働け、自己の為に働け、いずれか一方は公私の関係に異常性を見る。

1-4 基礎性、活動観

「基準性、対象選定、観測評価予測、施策検証、改善持続、」という活動観念が、各種抽象観点の基礎づけに作用する。「感性と概念と精神と身体」という根幹の観点が、各種現象の起源に作用する。根本性、基礎性、二次三次の観点、産出、体系周期持続、静態と動態と動静、不動と変動、因果観、

1-5 思い込みと傲慢性

あまりに、思い上がりの激しい馬鹿に対面すると寄り添ってあげているなど言う自己認識を強める。相手方はただの迷惑でしかないと思っているのに、してあげている、一方向の歪な創造と解釈を進める。サイバー犯罪も

Created by Universal Document Converter

身元を明示する事無く他人を盗聴し産出を盗み取り活用する行為は損害性が起こる。単なる犯罪性であり淡々と取り締まる判断が進む。

1-6 感性と頭と手足

手足には考える力が見られない。指示命令に従う事しかできない。金をやるからやれ、生きるのに必要な金を得るために何でも構わずやる手足性。良し悪しの判断能力がない。これを意図した教育の進行か。歪な感性と概念と精神と身体の相関と習慣の生命と領域が生まれる。生命観の狂った宗教性、丸暗記と受動性、ピンハネ中抜き、機械化とロボット人形、産出と検証と改善と持続の弱まる偏差値序列の教育の弊害。技術習得、知識吸収に偏る。政策と概念と見識が不足する。活動習慣の歪化した人間性、

1-7 共通的欲望と公性の作用、取り締まり

ただの病理と虫けら、これを始末することが期待され、税を提供されている取り締まり当局の機能が働かないのは税の投入が少ないか、多く提供しているのに期待に応えぬ怠慢か、特定産出について適正観と過不足の算定を整える必要が起こる。産出者自らの適正な算式をもって自律が作られる。第三者的な立場からその定式が適正か、判定が加えられる。

1-8 標準と過不足

取り締まる役割を与えられている認識が乏しく「自己責任」を強調するのは歪な心象が進む。偏差値バカの勘違いの激しい性格を見る。この手の馬鹿を選ぶ馬鹿という性質が連鎖する。馬鹿の根を取り除く作為に根源性が生まれる。思い上がりの激しい陶酔、未成熟に大きな権限や力を与えると正よりも負の因果が増す。健全性と客観性を引き上げる基準の導出と運用を増すように思慮と概念の整備が進む。

1-9 基準の精査分類と相関

「見識、概念、知識、政策、技能、情報」などとして、内容の分類と相関が整理される。知識量に偏る動静不良を招く優劣基準の歪性、健全な活動と人間性の具象化した概念と運用が進む。影響が大きくなるほどに自己生産の範囲を集約し出来る限り明瞭化する必要が生まれる。これを不足し未成熟が妙な配置に就き暴走を作る。肥満な保守と破壊的自由、過剰の削減、

Created by Universal Document Converter

1-10 見識概念性

生命人間、政治の適正とは？概念提起、学術研究性の作用が停滞すると、実務の停滞、観測と流通の歪性に連鎖し領域の政治性を狂わせる。概念精査と産出を担う教育性が起源性になり、実務家と歴史家の性質を作る。肥満と堕落の教育、狂った運用、虫食い流通、習慣と性質、生命の質実、宗教、哲学文化の病み、全容性が映る。領域の中枢が腐ると二次三次と不良が拡大する。狂いの激しい強権と自由が増す。

1-11 特定現象と性格

車の運転、客を乗せたバスの運転、鉄道、船、飛行機、等々、一つ操作を誤ると、生死を分けた大惨事を齎せる緊張の高まる現象が特定される。一方、言葉、論理と会話、机上の調査や集計と産出を主たる生産性に有する事務方、ホワイトカラーといった特定活動と領域性が作られる。直接的な生死の感覚から離れた緊張の弱まる習慣が生まれる。言葉や論理の緊張が弱まり、粗雑な表現を招く事に問題性が起こる。産出と検証の感覚が不足し論理概念の構成が崩れ意味不明な産出に及んでも直ちに生死を分ける事態は生じないものの間接的に大きな影響を生む。言行の整合を通常の感覚にする領域性、直接と間接の因果、文学や音楽映画、芸能芸術、美術といった想像と創造世界を生む。現実性から離れた仮説と空想、想像の産出を主たる活動成果にする。生死との因果は更に遠ざかる緩和の特徴を生む。

1-12 緊張と定常と緩和

緊張の高まる現象、定常性の領域、緩和性の領域、ごく当たり前に問題を生じさせずに、持続的緊張と実現を果たす困難性を知る。当たり前に行えることの有難さ、尊さを失う事の問題を認識する。生死の感覚から離れた領域に及ぶほどに緊張が緩み生命の歪性が進む。緊張を保つには適当に休息が有り緩和を持ち緊張が果たされる。緩和性の世界も規律や秩序という安定要素を必要にして良好な緩和を産出する。緊張と緩和の相関を生む。

1-13 産出と検証、改善持続、並列と上下、縦横の整合

言葉の相関、文章の構成、並列と上下の相関、論理の飛躍、意味不明性、日常の活動に不信感が想像させる。何を産出し効果と検証を通し緊張を作り出しているのか、検証が乏しく勝手気ままな制御の弱い活動習慣は言葉

Created by Universal Document Converter

と表現に粗末性が現れる。並列と上下の相関が錯綜し理解と納得の弱まる意味不明な集約性の表現などとして、緊張感の乏しい肥満や不健全を伝える。生命人間、活動の崩れた真相や質実が、言葉表現を通し掴み出される。

1-14 肥満性、堕落性

羅列、断片化、一過性、錯綜、重複、支離滅裂、概念形成上の不良、言行の乖離、標準と過不足の適正を作る思考と態度から離れた肥満性を表す。「多様性が良い。」などと要望が示される。思考を重ね基準と過不足の感覚や想定を掴み、表現する態度にあるか。多様とは何か、あまりに無思慮的に抽象観を用いる不健全性を伺う。平等、自由、平和、等々、

1-15 標準性、基礎と応用、体系と周期と持続、生命性

標準性とは何か、一定の変わりづらい基準の存在、基礎性を保ちながら、二次三次の応用を図る創造に及ぶ。変わりづらい標準性とは何か、どのような応用を作るか、本質性が歪化する事のない一貫を求め基礎と専門と全体の適正を遂げる創造世界を遂げる。体系周期持続、動静、生命力と持続、

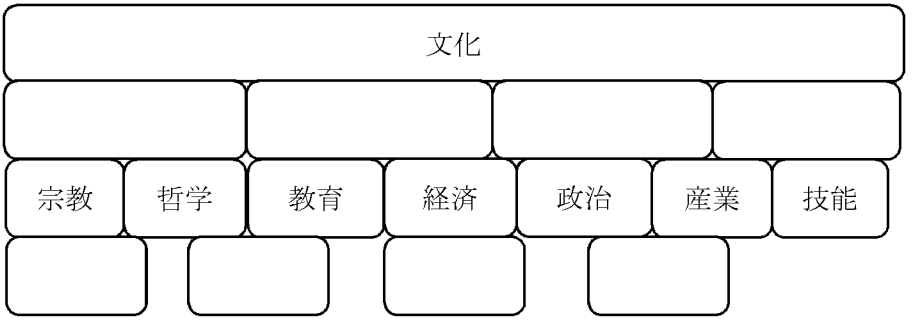
1-16 制御不能、過剰、異常性

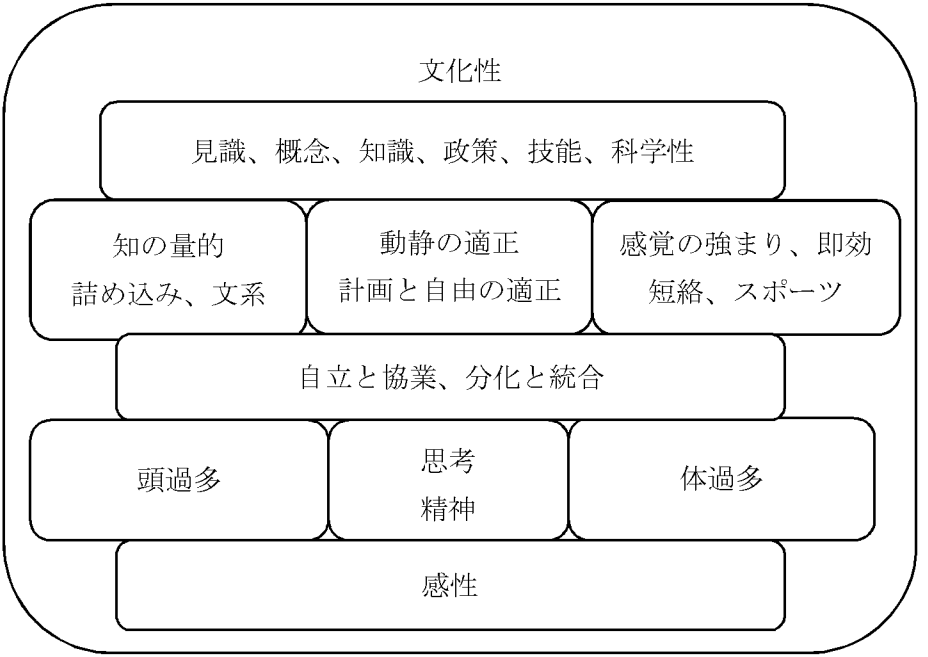
標準性の崩れ、箍のかからぬ肥満や不良、犯罪と病理に陥る危惧と警戒、当たり前の感覚、定常性を維持することの困難さ、妙に緩和に偏る生の乱れ、金狂い、ピンハネ中抜き、省資源で大きな効果、物理的力の依存、生の粗末性、力の支配、消滅と破壊の基調と軌道、基礎土台の維持と崩れ、盗み詐欺、暴力を常態化した病理、異様な優越願望、

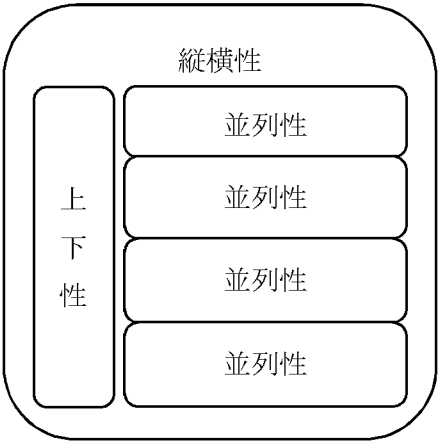
1-17 自己分野他者分野、自他分野、自立と協業、緊張と緩和

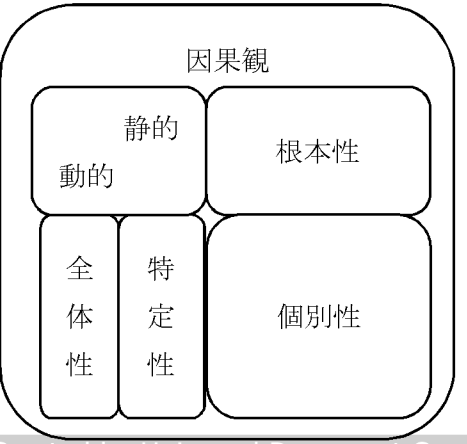
あれもこれも中途半端な虫食いを産む不健全。領域性を絞り一定の質を保ち産出する事を求める。専門、特定分野性が生じる。自己分野性と他分野性、自他を含む分野性、自立と協業、分化と統合、社会性、人間性、生命の良好性、緩和と緊張、自由と制約の関係、バランス性が異様に崩れ、生の肥満と破壊、対立と二極化を齎せる。変わりづらい基礎や標準とは何か、このような観点と文脈を定常の創造習慣に持つ、基礎分野・哲学性という特定領域を生む。生物物理性と文学性と哲学文化性の相関、感性と概念と精神と身体の相関を生む。

Created by Universal Document Converter









Created by Universal Document Converter